

第3回 草津市南草津エリアまちづくり推進懇話会 会議録

- 日時： 令和2年11月25日（火） 14：30～ 16：40
- 場所：フェリエ南草津5階 市民交流プラザ大会議室
- 出席委員：武田座長、棚橋副座長、石垣委員、田村委員、橋本委員、花澤委員、伊藤委員、岡井委員、足立委員、有村委員、野口委員、笠井委員、新谷委員
- 欠席委員：梅村委員、長谷部委員
- 傍聴者：2名
- オブザーバー：昭和株式会社3名
- 事務局：総合政策部草津未来研究所 堀田理事、本村調整員、中瀬参事、坂居専門員
総合政策部兼都市計画部 一浦副部長

1. 開 会

【事務局】

皆様、こんにちは。定刻になりましたので、只今より、第3回草津市南草津エリアまちづくり推進懇話会を開催させていただきます。

それでは、開催にあたりまして、草津市総合政策部理事で草津未来研究所副所長の堀田が御挨拶申し上げます。

【堀田理事】

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、御出席賜り、ありがとうございます。

さて、アーバンデザインセンターびわこ・くさつのオープンスペースの写真展示について御紹介させていただきます。

平成6年に南草津駅が開業し、悲願の新快速停車が平成23年にありまして、今年度で10周年を迎えました。このことから、南草津駅を中心に発展してきたまちの移り変わりの様子や、南草津駅の新快速停車のために思いを集めて活動した当時の様子などをパネルにして展示しています。このパネル展示は、明後日27日までとなっておりますので、もしお時間がありましたらぜひ一度御覧いただければ幸いです。

本日は、みなくさビジョンのコンセプト案や施策案をテーマとさせていただいておりますが、委員の皆様とともに策定するこのみなくさビジョンが、10年後に新しい南草津のまちづくりの出発点であったと言われるようなものにつくりあげたいと思っておりますので、委員の皆様には忌憚のない活発な発言を頂戴したいと存じますので、どうぞよろしく願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

それでは、次に配布資料の確認をさせていただきます。

(配布資料の報告)

なお、本日の傍聴者がおられますので、よろしく願いいたします。

また、梅村委員、長谷部委員については御欠席でございますのと、新谷委員につきましては遅れて御出席される旨の連絡を事前にいただいておりますので、よろしくお願い

いたします。

それでは、ここからは座長に進行をお願いいたします。

2. 報 告

【座長】

ここからは次第に沿って進めていきたいと思います。

事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(資料1の説明)

【A 委員】

「南草津駅にピントを合わせ、地元農産物販売所の設置をフェリエの活用を含めて検討すべきでないか」という前回の意見について、事務局から地域まちづくりセンターにて朝市が実施されているところもあり、JAと協力していく仕組みづくりが必要だと考えていると回答されていましたが、意見に賛成ということですか。

【事務局】

販売する側とのマッチングが上手くいくかという問題がありますが、いただいた意見については実施する方向で考え、ソフト事業として展開できればと思います。

3. 検討事項

【座長】

ここからは検討事項になります。

事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(資料2の論点1である南草津エリアのコンセプト案について説明)

【B 委員】

「目標② 誰もが安心・安全に住み続けられるまち」という表現を、障がいや病気を持ちながらも安全に、という表現に変えてはどうですか。

【座長】

誰もがという言葉には病気を持つ方等も含めていると思いますが、一部の人たちを配

慮するような表現があったほうが良いということですか。

【B 委員】

セーフティプロモーションの考え方にはそういった方を排除したほうが安全という発想が生まれがちということ懸念した上での意見です。

また、「目標① 地域活力が持続的にあふれでるまち」という表現では、主体的でないイメージがあり、「あふれだす」という表現の方が良いと思います。

【座長】

目標②の具体説明に「子どもから高齢者まで」という文章がありますが、他のタイプの人はどうなるのかということにならないですか。

【事務局】

南草津エリアに関わる全ての方もしくはお住いの方という表現に修正します。

また、南草津エリアということがわかりづらい将来像や目標になっているため、その点について御意見をいただきたいです。

【C 委員】

当エリアは高度に発展した都市ではなく、防災マップを見ると川が氾濫する危険があるということが事細かに書いてあります。十分に行き届いた防災対策はまだできていないため、細かいところに注力する前に、大きなところから防災を考える必要があると思います。

非常に大きなことなので、お金もかかり草津市だけではできない問題ですが、地域全体に関わることであるため、順番を決めて対策を打っていくという姿勢が必要だと思います。

【事務局】

基本方針③に「防災対策に継続的に取り組みます。」と書いていますが、表現が弱いようであればもう少し強調して書きたいと思います。

【D 委員】

将来像では「多様な交流によりにぎわうまち」、目標③では「多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち」となっており、交流とにぎわいの順番によって意味合いが違ってくると思いますので、統一していただきたいです。

【座長】

順番が重要ですが、これは意図があつての順番ですか。

【事務局】

多様な交流が生まれることがにぎわいなのか、多様な交流によりにぎわっていくのかという言葉のニュアンスが違うと思いますので、委員の皆様から御意見をいただければと思います。

【座長】

にぎわいがあるって、その中に多様な交流があるというのが一般的な感じがします。

多様な交流が生まれるにぎわいのあるまちという表現に統一することで問題がなければ、修正していただきたいと思います。

【D 委員】

交通に関してはきめ細かに見ていく必要があるため、まめバスの利用者数だけでなく運行本数も指標に入れるべきではないですか。

また、草津 I C 周辺のにぎわいということも議論していたので、I C あるいは P A の利用台数も重要な指標になるかと思いますが、新たに加えることを提案します。

【座長】

まめバスとしては、実際にどれだけの人が便利になっているかを伝える指標、にぎわいについてはエリアごとに拾えるような指標が必要ということですか。

【事務局】

まめバスに関しては運行本数もちろんですが、どれだけのエリアをカバーしているのかという充足率のような指標もよいのではないかと思います。

P A の利用台数については N E X C O 西日本に確認する必要があるため、検討します。

また、それぞれの拠点のにぎわいに係わる指標を設定することについても検討します。

【E 委員】

課題として、交通結節機能の充実があります。将来を見据えると色々な交通手段が考えられる中で、指標がまめバスだけというのは寂しいのではないかと思います。

【事務局】

J R 南草津駅の利用者数が加えられる指標の一つかと思いますが。

南草津駅周辺の中心拠点については、駅利用者の維持、利便性の向上がわかるような指標を考えます。市民に分かりやすい指標を、J R 西日本さんと御相談させていただきながら検討したいと思います。

【E 委員】

二次交通がどのエリアをカバーするかは決められないですが、連携できる場所では鉄道からの二次交通へのアクセスとして 5～10 分以内に繋がっているということが売りになると思います。

【事務局】

指標を設定するということは、施策にどのように書き込むかということがポイントになるかと思います。現在、社会実験後の課題整理をしているので、それも踏まえ、より南草津駅の利用者数の維持、利便性の向上を図っていく必要があると思います。

【E 委員】

社会実験中に鉄道の利用者数が変化しているかを調べてみましたが、特段利用の変化はないようでした。

【座長】

それぞれが独立して利用者を増やせば良いというものではなく、接続が大事ということを入れます。結果的には J R の利用者数の増加につながると思います。

ビジョンは最終の施策のみとするのか、施策を推進していく検討チームやプロジェクトの発起についても書けるのですか。

【事務局】

どこまで書き込むかということになると思います。施策については、「～の推進・検討」という言葉になるかと思いますが、こういうことをしっかりやっていくということを書くのが大前提です。後ほど施策について意見をいただき、どういう書き方がよいのか整理したいと思います。

【座長】

駅前でたくさんの方が滞留し、生活空間になっているということが図れる指標があると良いと思います。

UDCBK の利用者数とあるが、利用については買い物のみではなく、生活の中で人が滞留するという風景をつくるのが大事なのではないかと思います。

【B 委員】

二次交通との接続について、利用者側からすれば待ち時間は短い方が良いですが、乗ってから渋滞で動かないとなると便利とは言えません。例えば、立命館大学までの標準到着時間等があると、より利便性が実感しやすいかと思います。

【事務局】

現在、社会実験をしている理由の一つは駅前の渋滞対策です。まだ詳細な分析をしていないが、信号がボトルネックになっているようです。しかし、歩行者の安全のためには一定の信号がなければならず、議論を進めていかなければいけないと思っています。

利便性を高めなければ乗っていただけないので、社会実験の結果を踏まえ、施策を検討したいと思います。

【座長】

自家用車の利用数減少も重要な指標ですが、その前に公共交通の整備をしてほしいです。指標が多すぎるとわかりづらくなると思うので、塩梅が難しいです。

【事務局】

懇話会の御意見を受け、代表的なものを指標として決めたいと思います。

(資料2の論点2である施策案について説明)

【D 委員】

「JR南草津駅周辺におけるウォークアブルなまちづくりの推進」という施策に、「歩行者や自転車における～各学区へのアクセス性の向上」とありますが、これまでアクセス性の向上のみならず安全性の確保という議論をしてきたので、「安全性の確保」という表現を加えるべきです。この施策はゾーニング案の「中心拠点」にのみ○が付いていますが、アクセス性の向上や安全性の確保は全ての領域にまたがる話なので、「中心拠点」だけではなく「エリア内の連携強化」にも○を付けるべきだと思います。

【事務局】

中心市街地活性化基本計画のキーポイントとして挙げています、歩いて楽しくなるような、徒歩や自転車での駅へのアクセス性を高めるという意味で書いています。

南草津駅の西側ではプリムタウンの整備が進み、駅の利用者増が見込まれるため、徒歩や自転車でもらえる仕組みづくりを議論し、駅の利便性を高めたいと思っています。その前提に歩行者や自転車の安全が大事なので、そこはしっかりと考えていきたいと思っています。

【座長】

「自転車ネットワーク計画の推進」も「エリア内の連携強化」だけではなく、「中心拠点」にも関わるとしています。

【事務局】

立命館大学関係者の意見では、学生が地域の色々な活動に参加できる仕組みがあると良いという話がありました。大学生の視点で地域活動へ参加する仕組みについて意見をいただければと思います。

【F 委員】

私個人としては、地域に寄与する活動は南笠東学区内を歩いて楽しくする仕組みづくりをするという研究室のプロジェクトしか参加していません。

大学の情報掲示板にボランティア募集などが出ているが、参加者はなかなか増えないと思います。個人に声をかけて仲間を増やすシステムがあれば、今日まで目を向けてこなかった学生も参加しやすくなるのではと思います。

【座長】

我々は「整備」として施策例を見てしまうが、人をつなげる仕組みをつくるというソフト施策の考え方もあるのではないかと思います。地域住民と学生をつなげる組織が今ないのであれば、つくと良いのではないのでしょうか。

【事務局】

企業と学生が何かコラボレーションできるような仕組みも非常に大事だと思います。

地域のにぎわい、交流といった点で、大学がまちにあるというところを抑えていかなければいけないと思います。学生と地域がつながるような仕組みについて懇話会の中で意見をいただいて検討していければと思います。

【座長】

「基本方針① 大学や企業等の立地集積を活かした人材活用と空間形成」の主な施策内容に、人をつなげていこうというようなことが書いてありますが、南草津駅前のにぎわいとつなげることも考えられるので、ゾーニング案では学術・研究複合連携の拠点だけではなく、南草津駅前の「中心拠点」にも〇が付くのではないかと思います。

【A 委員】

「南草津駅にピントを合わせ、地元農産物販売所の設置をフェリエの活用を含めて検討すべきでないか」という前回の意見について、J Aや地域まちづくりセンターが朝市などを実施しているという回答がありましたが、個人的にはJ Aや地域まちづくりセンターと南草津駅前では交流する対象が違うように思います。南草津駅に拠点があることが大事なので、例えばフェリエに地元農産物などを使った料理を食べられるスペースを設置し、地元農産物を扱っている様々な方とワークショップなどができれば、地元産業への新しい顧客を

開拓でき、その顧客をJAや地域まちづくりセンターへつなぐ窓口のような役割になりえると思います。

施策の「田園環境の保全と農業資源を活かした交流促進」は、「琵琶湖辺自然・文化振興」の拠点に該当していますが、「中心拠点」のにぎわいにもつなげられるのではないですか。

【事務局】

フェリエは指定管理者が運営しているので、指定管理者との調整が必要ですが、議論していきたいと思います。

【G 委員】

目標③の「多様な交流～」と、基本方針②の「世代を超えた交流の創造」がリンクしていないのはなぜですか。

また、南草津エリアには市街化調整区域はそれほどないという認識でしたが、「特定区域における計画的な土地利用の検討」とは具体的に何なのか教えていただきたいです。

【事務局】

目標と基本方針がつながっていないように見えるのは、施策例が固まっていないためだと思います。一つの目標に一つの基本方針がリンクしているのが分かりやすいですが、施策例を固めながらわかりやすいリンクを検討します。

また、湖南幹線沿いの特定区域の一部では、市街化編入を進めています。老上西学区の浜街道沿道や老上学区でも特定区域について話し合いを始めたところです。市街化調整区域の地区計画制度や都市計画法 34 条 11 号特定区域を使いながら、まちの活力の維持・創出を図りたいと思います。

【G 委員】

基本方針はまだ変更していくという認識でよいですか。

【事務局】

施策についての意見を皆様からいただいた後、必要なところの修正やブラッシュアップをしていきます。

【G 委員】

目標に対して複数の基本方針となるのは問題ないですが、基本方針と施策は一致すべきです。基本方針①の「大学や企業等の～人材活用」と、基本方針②の「多世代～交流」はどちらも交流の話なので、交流としてひとつの基本方針にまとめてはどうですか。

【B 委員】

「まちに誇れるもの（ブランド）がある」というアウトカム指標があるが、まちに誇れるものとは何か。

【事務局】

第6次草津市総合計画で実施した市民意向調査項目を用いた指標であり、まちに誇れるものとは価値観によって異なるため特に限定したものではなく、市民にとって草津市が良いと思えるようなブランドがあるかどうかというアンケートです。アウトカム指標なので直接施策と結びつけるのは難しいですが、市に誇れるものがあると思える市民が増えることは、草津市のブランド力が上がっていることであると捉え指標として設定しています。

【H 委員】

南草津にはにぎわうところがないというのが現状です。人が集まり混雑することがにぎわいではなく、交流することがにぎわいだと思います。

南草津には老上学区の前田後田墳などの歴史もあるため、それも含めてまちづくりを考えていただければと思います。

【D 委員】

私の学区では草津市版地域再生計画のまちづくりプランの検討に着手したところであり、今後懇話会に具体的な施策例の提案ができた場合は反映していただきたいです。

南草津エリアは、地域に残る遺産が存在したり、琵琶湖に接しているの地域なので、そのような視点から新たな施策例を提案できればと思います。

【I 委員】

志津南学区では朝の挨拶運動などで立命館大学の学生にボランティアで来ていただきましたが、コロナウイルスが流行る前から疎遠になってしまっています。大切な地域のつながりなので、どこと連携したらよいのか確認していただきたいです。

また、坂道を自転車が降りていくが、歩道と自転車レーンと車道が分離されておらず非常に危ないため、道路整備も含めて検討する必要があるのではないかと思います。

【事務局】

立命館大学との連携だが、草津未来研究所が市の窓口となって立命館大学と連携しているので、後ほど御連絡させていただきます。

道路については、ハード整備は時間がかかる部分があると思っています。例えば、志津南学区から下っていくのは比較的歩きやすいと思うので、上りはバスを使っていただくなど工夫し、ハードとソフトをうまく活かせるように検討していきたいと思っています。

【B 委員】

草津市のように大学生や働き盛りの世代を中心に若い活力を期待できるまちは全国でも希少であると思いますので、そこを南草津エリアの魅力として目標に出せれば良いと思います。

【G 委員】

基本方針③は滋賀県南部エリア、基本方針⑤は南草津駅周辺と場所を限定していますが、それ以外の基本方針は場所を限定していません。場所を限定しているものとしていないものが一緒になっているからわかりづらいのではないですか。基本方針は交流、防災、地域資源のように内容に着目してまとめ、ゾーニング案のところで場所性をカバーすれば良いと思います。

【E 委員】

弊社としても、まちに眠っている魅力あるものを鉄道でつないで交流を生んでいこうと考えているので、ぜひ南草津エリアも鉄道でつないで将来発展するようなエリアになれば良いなと思います。その上でPRしていく際には、南草津エリアは何が一番の売りなのかを将来のビジョンの中に入っていると良いのではないかと思います。

【座長】

将来像については、下に隠れているところから押し上げて、ブラッシュアップできれば良いと思います。

南草津駅前については、東口の課題はすぐどうにかなるものでないですが、西口はソフト的なものも含めて今からでも何かできる可能性が高い場所だと改めて思いました。南草津駅を降りて、どんなまちかがわかるようにしていくという可能性もあると思います。

【J 委員】

子育てする上で考えなければならないのは教育です。小学校や中学校が立命館大学や色々な企業から学べる、交流できるような仕組みづくりがあれば南草津エリアに住んで良かったと思える要素になると思うので、基本方針に入れていただければと思います。

【K 委員】

将来像に南草津エリア感がないと思います。南草津エリアには大きな企業があり産業と学問がうまく一つの地域に折り合っていたり、都市と豊かな自然があり、多様性に富んだ人がいたり、安心が担保されているところも見えるので、南草津エリアならではの目標になればよいと思います。産業と学問がフォーカスされると、南草津エリアの特徴がとがってくる

のではないですか。

また、SDGsは近年のまちづくりを語るうえで欠かせないキーワードになっているので、あったら良いと思います。

【A 委員】

東山道記念公園のような魅力がある場所があり、高齢者から小さな子どもまで各世代の声が聞こえて来たりするなど南草津エリアはとても良いまちです。新旧がうまく合わさっているため、自然と近代化がバランスよく共存していけば良いと思います。

立命館大学の学生がまちの推進を研究テーマにするなどして、学生の研究成果とまちづくりがうまく合体して進んでいけば良いと思います。

【F 委員】

今まで南草津エリアで通学し学ぶことに不便を感じてこなかったのは、地域にバックアップされている環境があったからだと気づきました。それは続けていただきたいし、学生はそういうことに無自覚なので、地域は学生との交流を求めている協力しようとしているということをアピールしていただければ学生の心に刺さると思います。

【副座長】

ワークショップの意見でデジタルサイネージというものがあがっていましたが、にぎわいなどまちを活性化していくひとつの外観的なあり方だと思います。また、仮設のイベント開催という意見もありましたが、遊びの感覚もあり防災拠点を含めた駅であった方が、みなさんが滞留しやすい空間になるかと思います。

また、南草津駅に向かって歩いていけるバリアフリーの推進は大切なことだと思うので、どこまでが範囲かということも考えていかなければいけません。住宅から南草津駅への道は狭隘なところが多いです。インフラを整備することでまちは活性化に向けた大きな動きとなるので、整備するべきだと思います。高齢化が進み、公共交通機関がなければ暮らすことができなくなるので、道路整備と併せて進めるべきです。

【座長】

10年後を見据えたビジョンづくりではありますが、より遠くの将来を見据えて将来像を書いた方が良いと思います。

4. 閉 会

【座長】

そろそろ時間がまいりました。委員の皆様にはスムーズな議事の進行に御協力賜り誠にありがとうございました。これで全ての議事は終了いたします。

それでは事務局へ返します。

【事務局】

委員の皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただき、貴重な御意見ありがとうございました。本日いただきました御意見は事務局でまとめまして、次回はみなくさビジョンの素案を皆様にお示しさせていただきながら議論ができると思いますので、引き続きお力添えくださいますようお願い申し上げます。

それでは、本日の運営懇話会を閉会させていただきます。皆様、どうもありがとうございました。